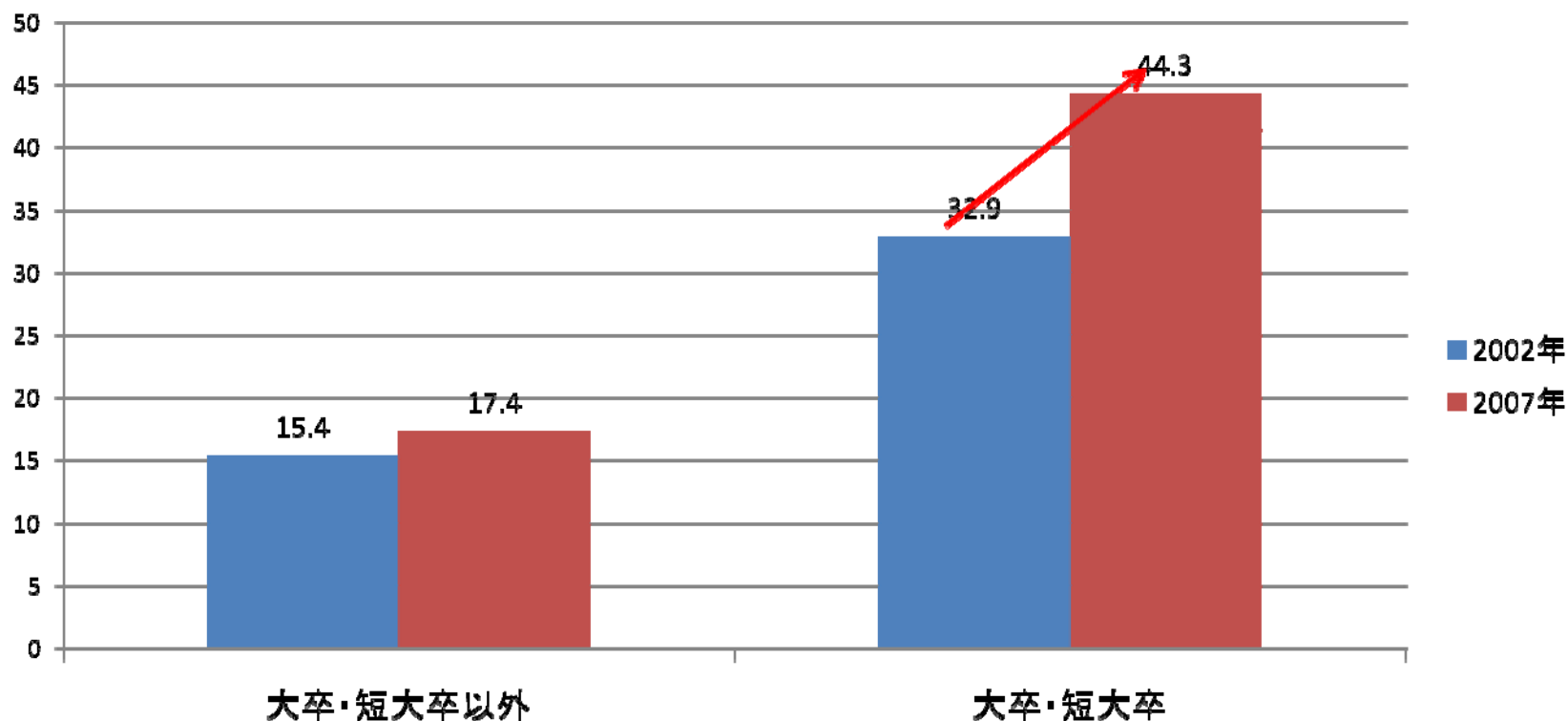


教育の問題

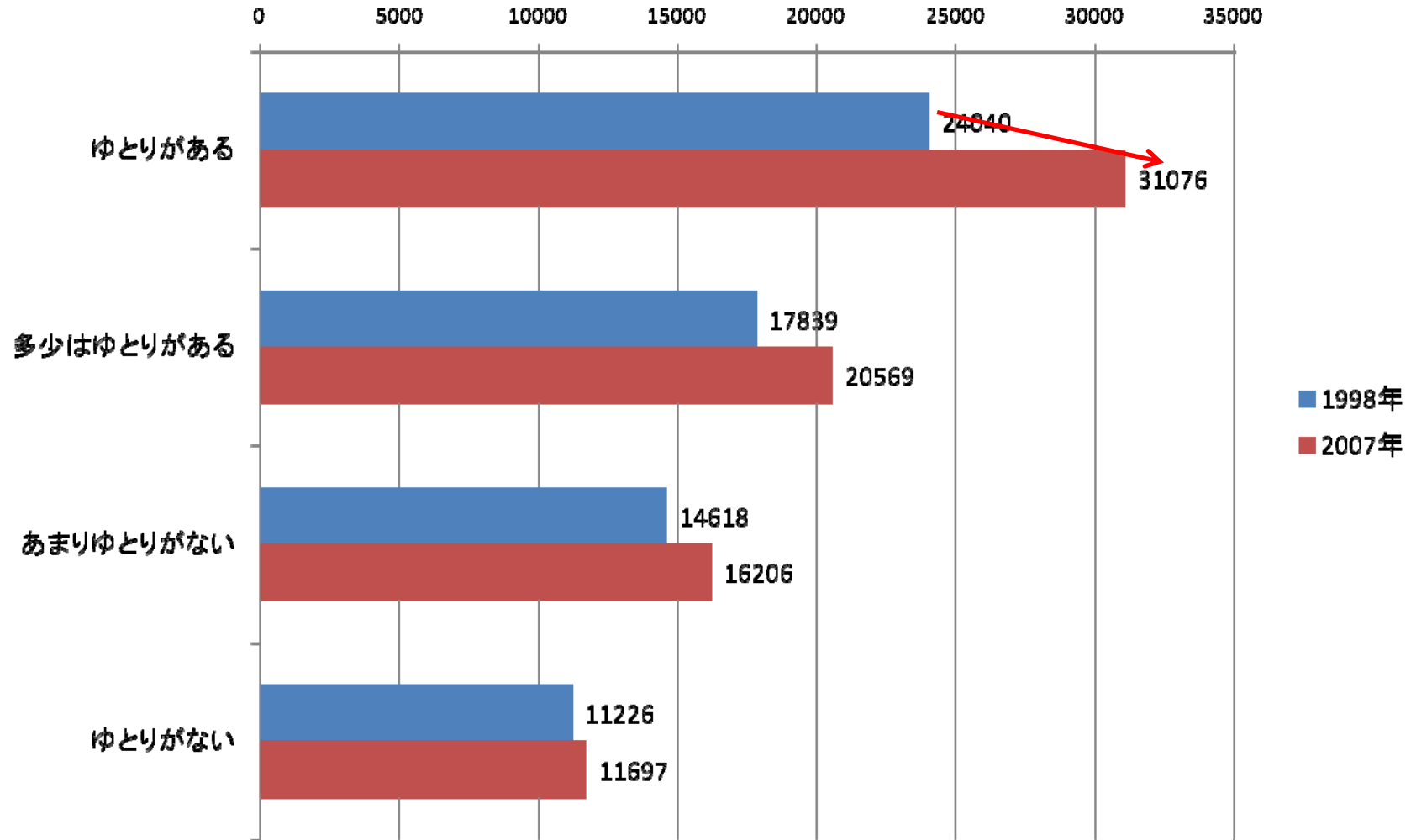
家庭の教育意識の分断の拡大

母学歴別「できるだけいい大学に入れるよう、成績を上げてほしい」と考える母親の比率(中学生)



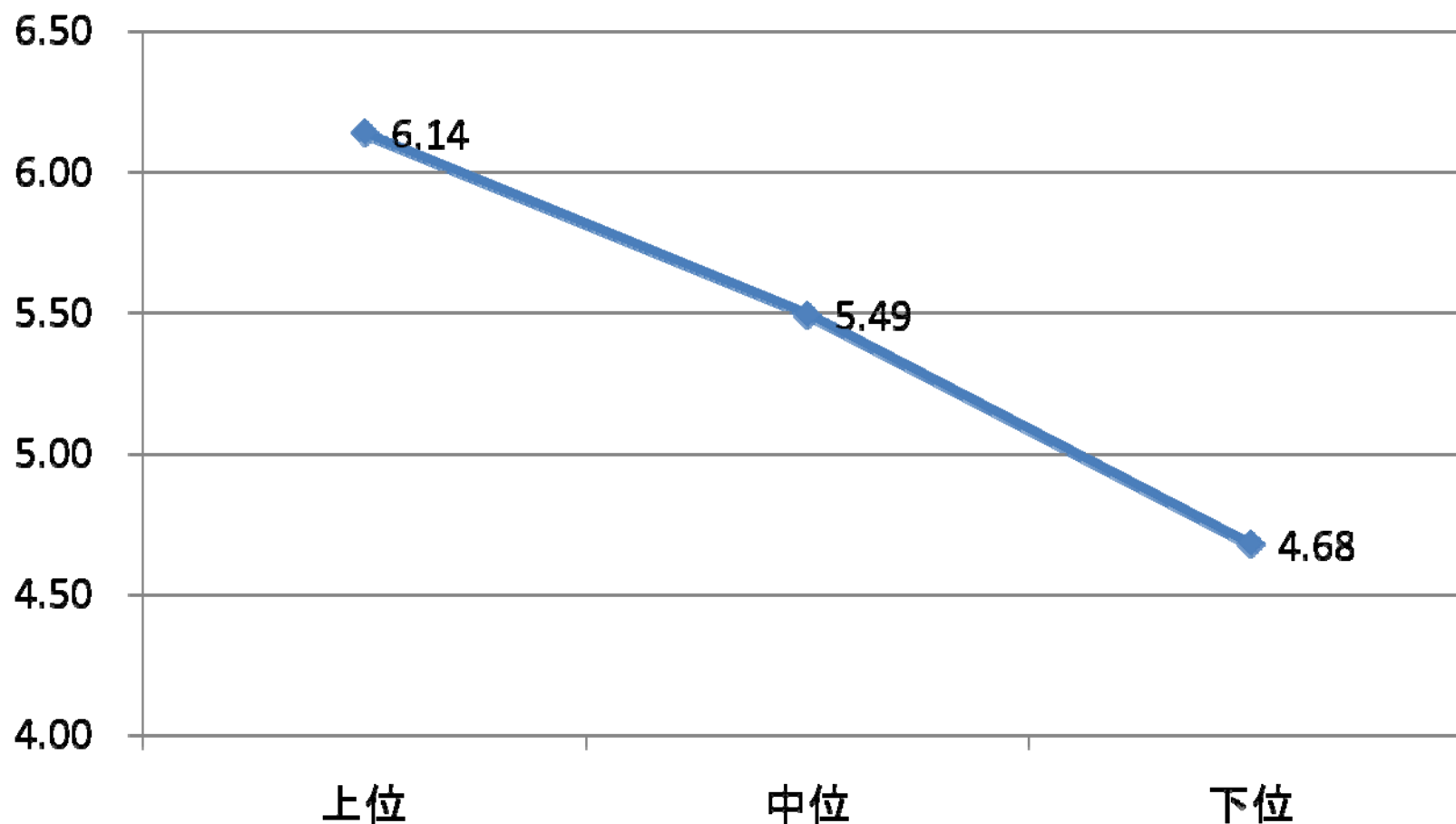
Benesse教育研究開発センター『第3回子育て生活基本調査報告書』2008年

生活のゆとり別 1か月あたり教育費 (小学生)



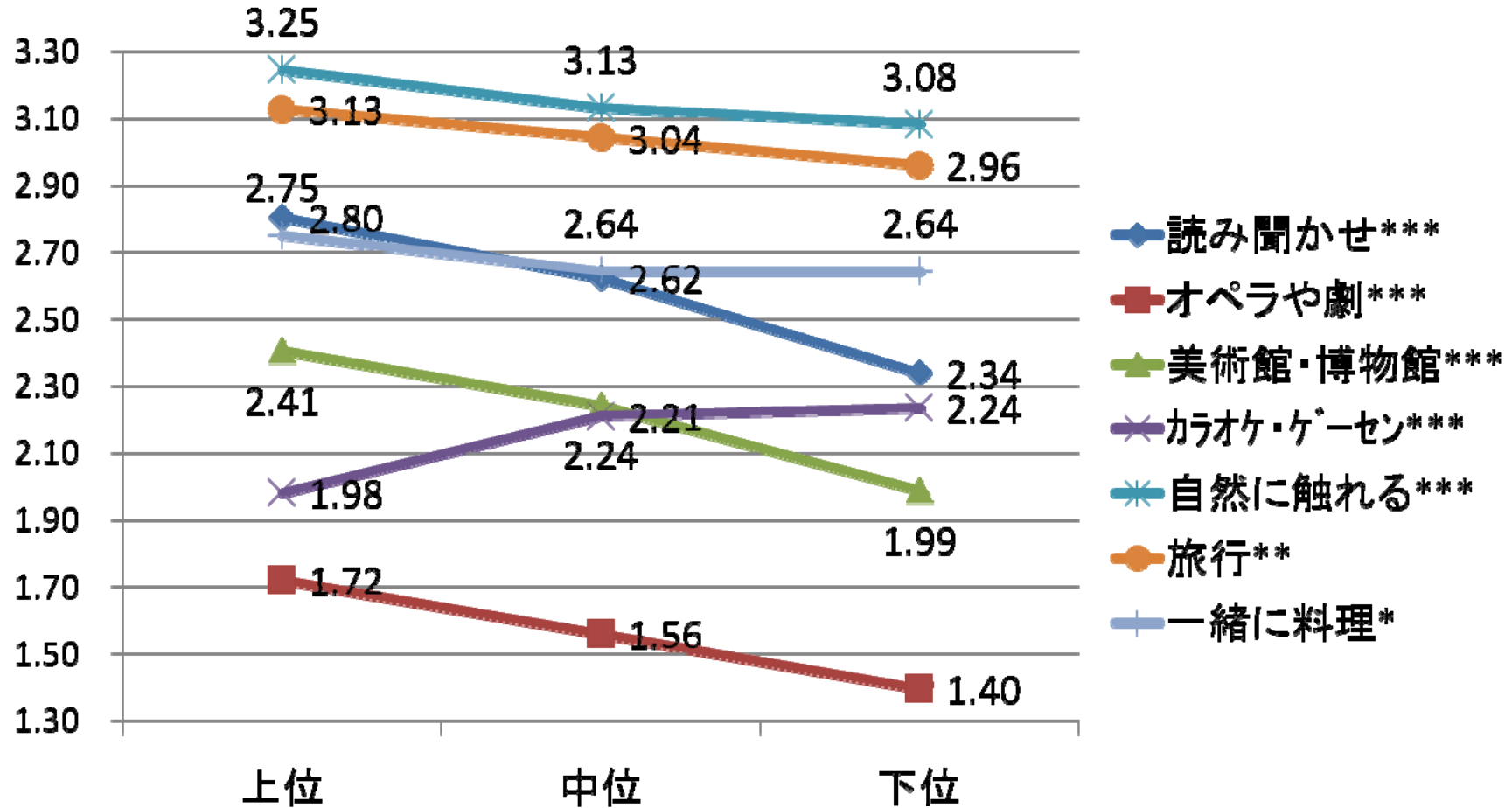
Benesse教育研究開発センター『第3回子育て生活基本調査
報告書』2008年

文化階層別 中学2年生の学力*** (10段階スコア)



東京大学教育学部比較教育社会学コース「神奈川県就学生の生活・意識・行動に関する調査」(実施時期:2009年10月～2010年1月)

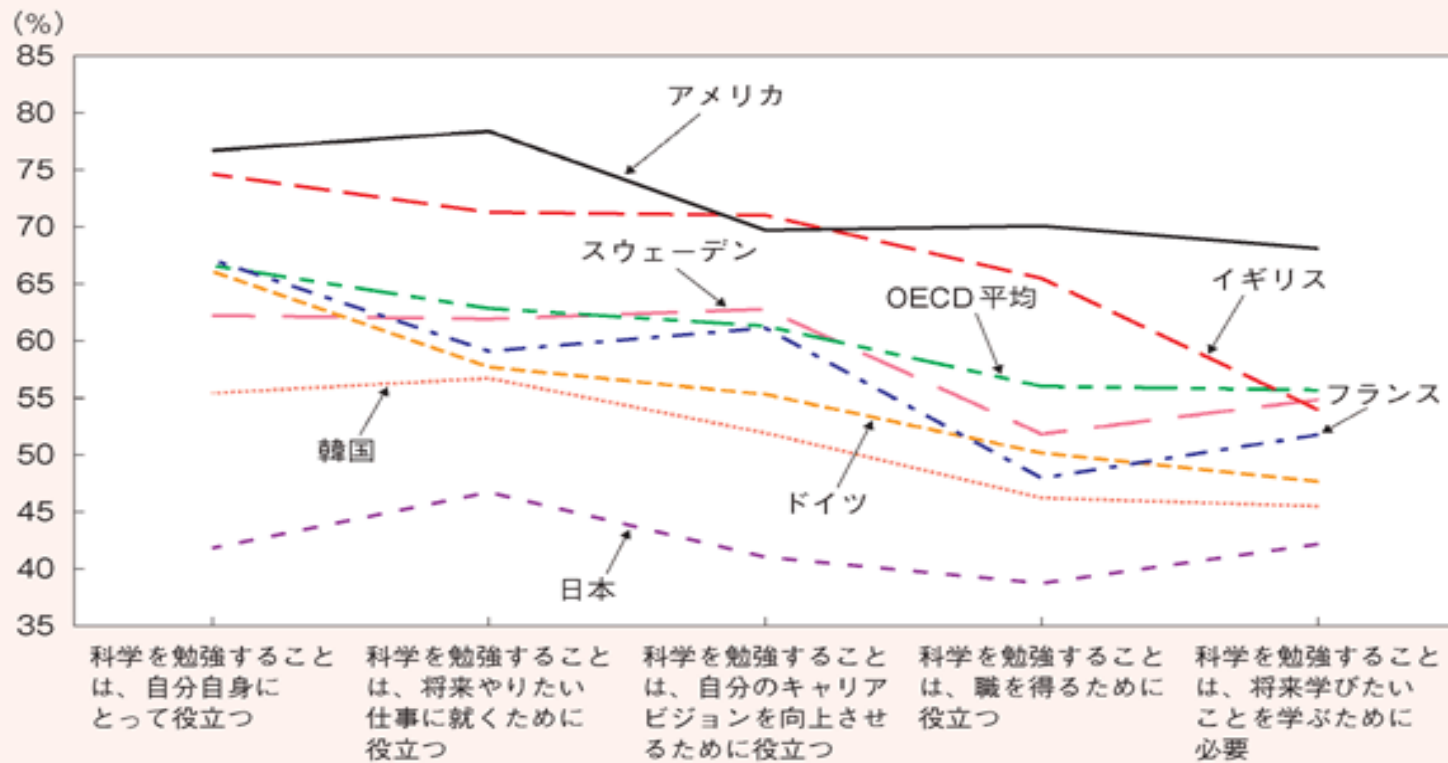
文化階層別 小学生時の親の行動



東京大学教育学部比較教育社会学コース「神奈川県就学生の生活・意識・行動に関する調査」(実施時期:2009年10月～2010年1月)

教育内容の「意義」の希薄さ

第2－(1)－25図 学習と仕事を関連づけて考える者の割合

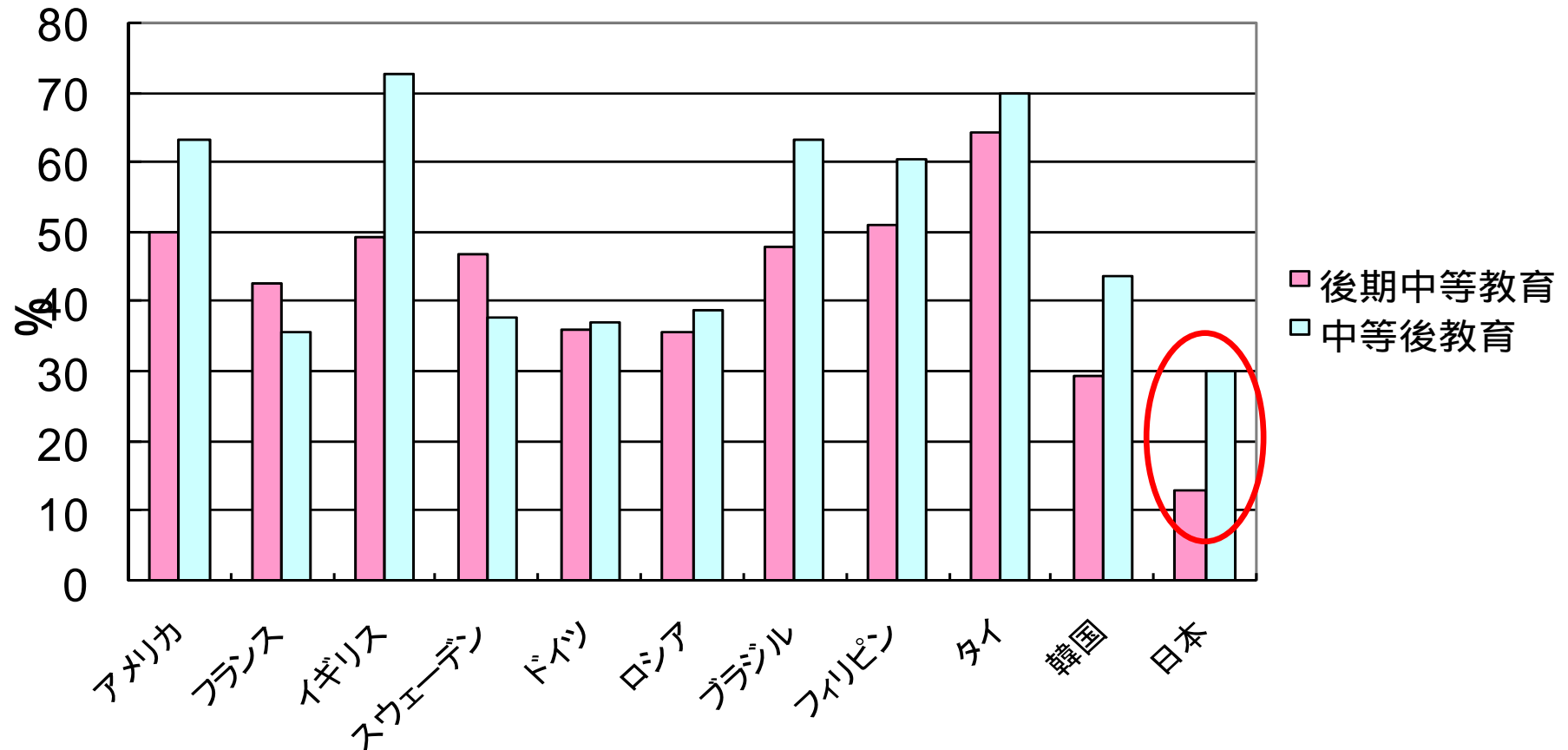


資料出所 OECD「PISA2006」

(注) 数値は、各項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」を合計した割合。

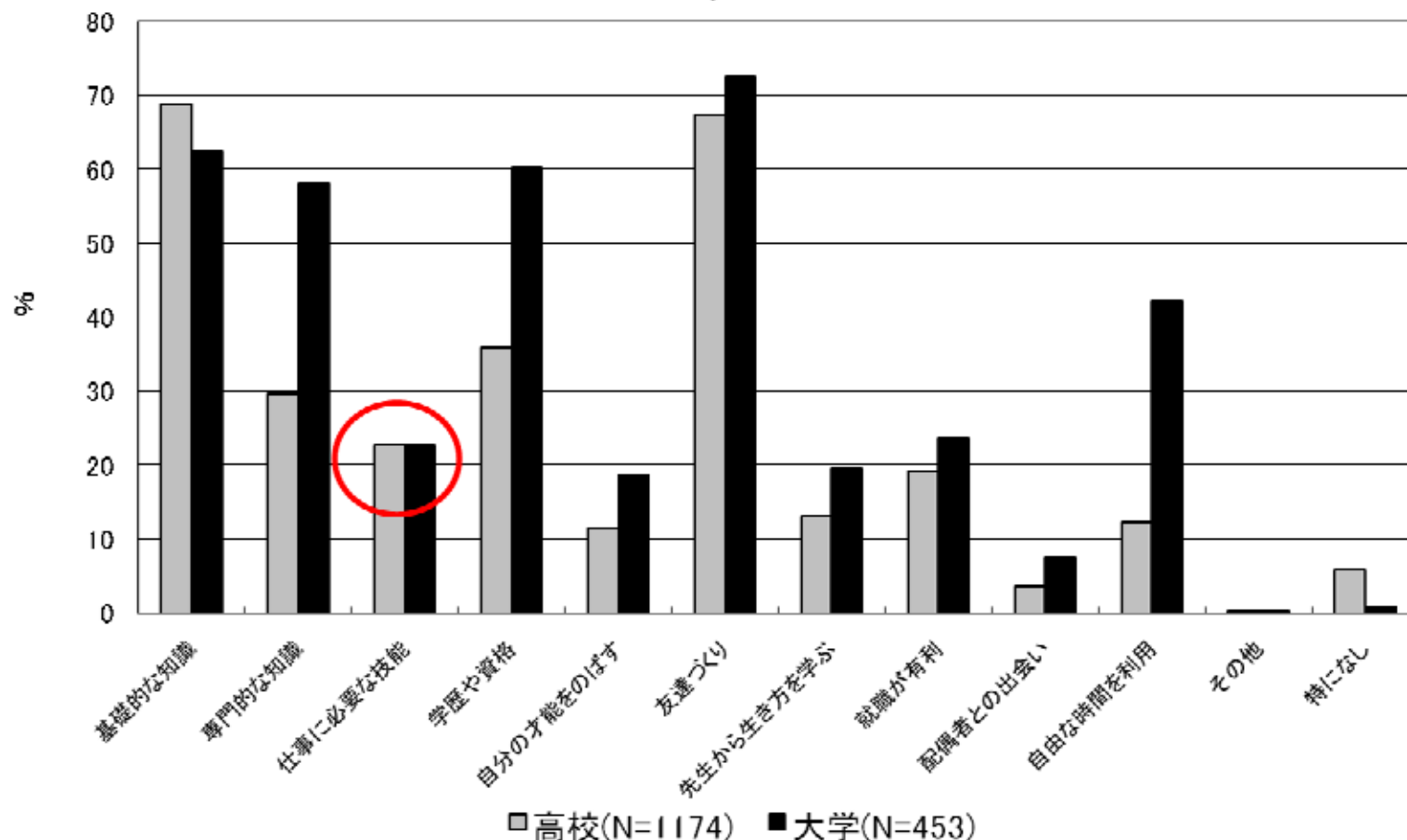
日本の教育の「職業的意義」の低さ

学校教育の意義として「職業的技能の習得」を挙げた比率
(国別・最終学歴別、「第6回世界青年意識調査」)



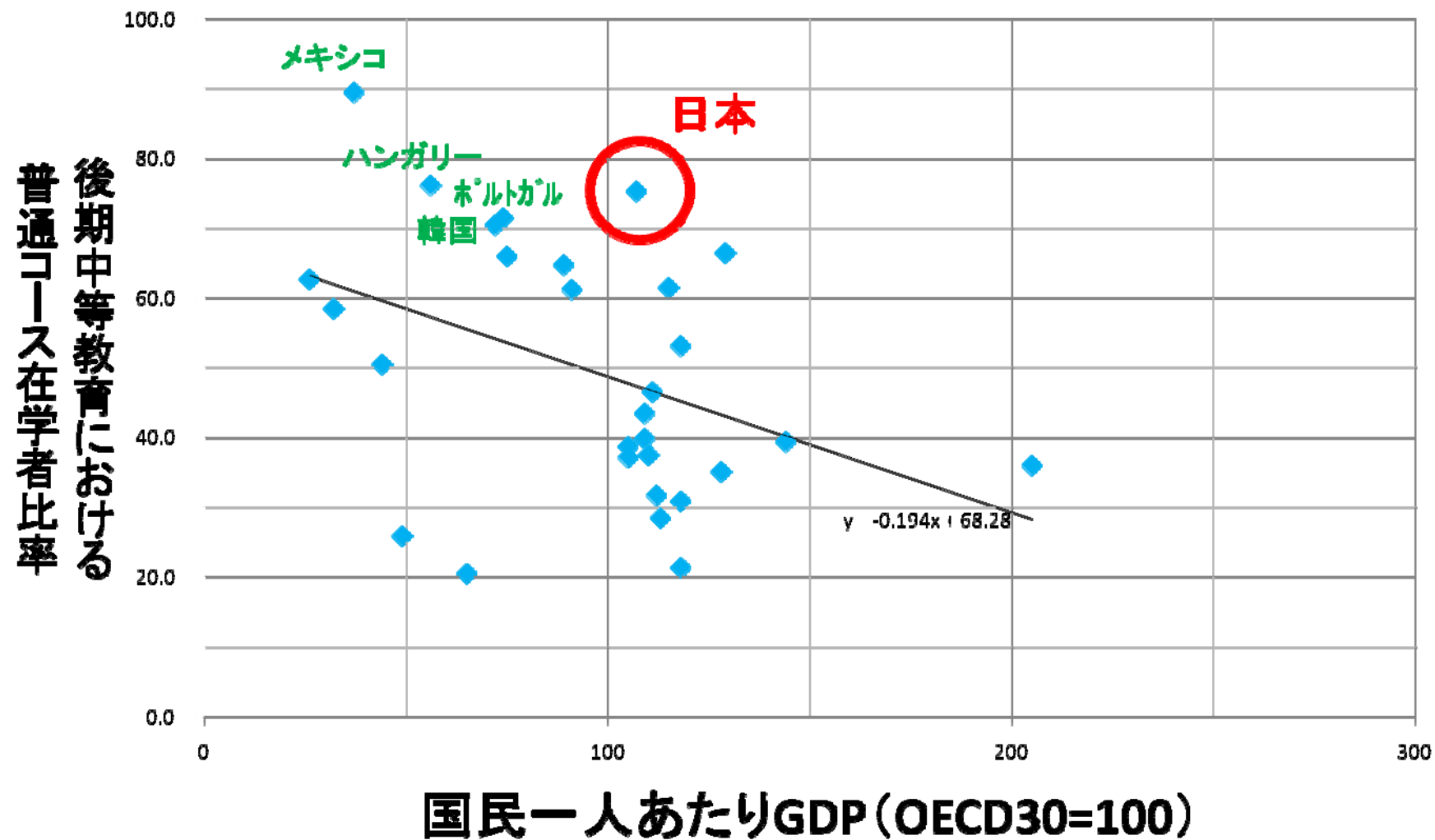
高校でも大学でも低い「職業的意義」

図18 教育の意義(高校/大学別, M.A.)



本田由紀「高校教育・大学教育のレリバンス」谷岡一郎他編
『日本人の意識と行動』東京大学出版会、2008年

OECD諸国における国民一人あたりGDPと 普通コース比率の関係



「キャリア教育」が掲げる能力

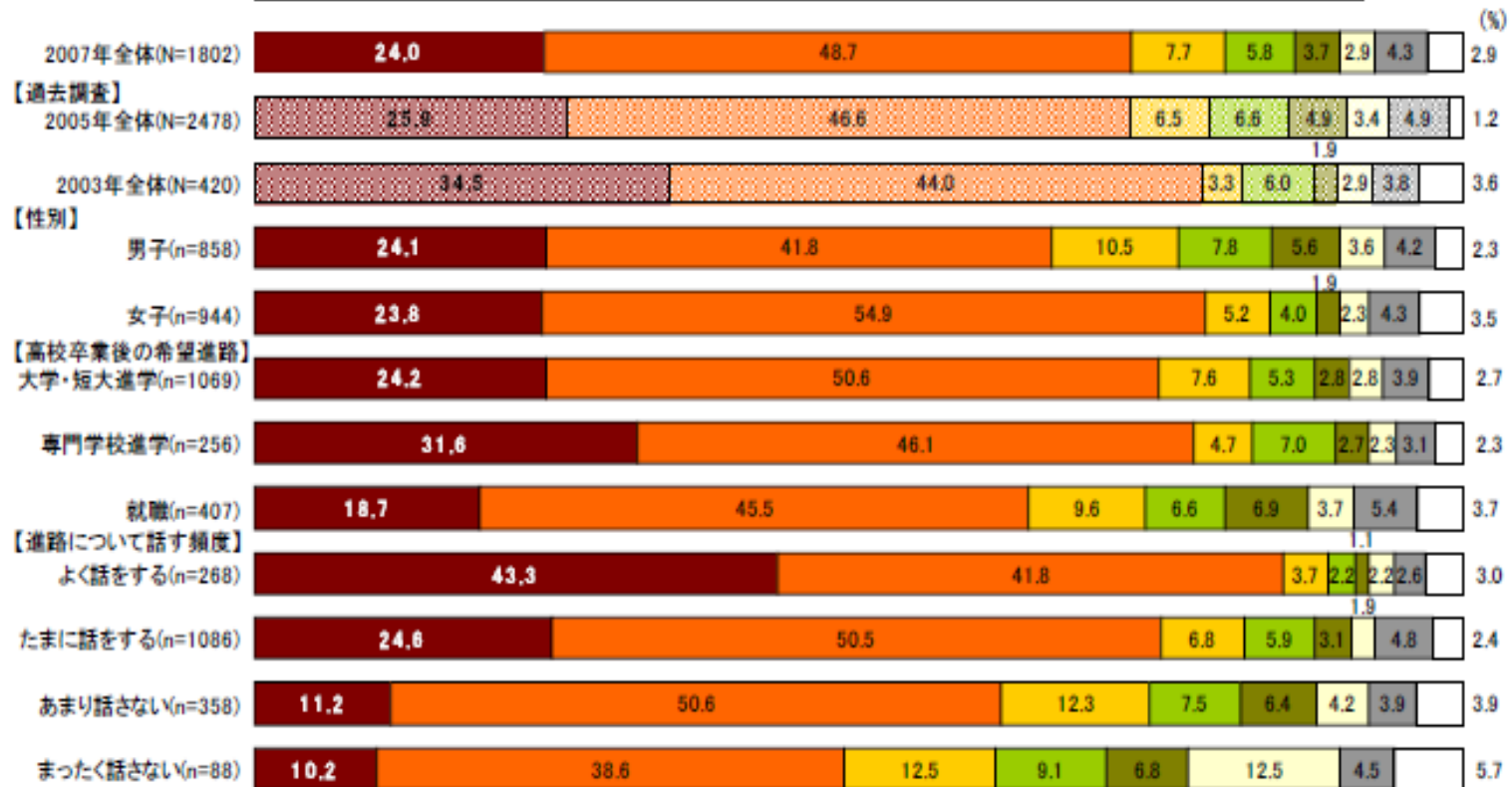
○基礎的・汎用的能力についての提言の例

	生きる力	学士力	キー・コンピテンシー (主要能力)	社会人基礎力	就職基礎能力	エンプロイ アビリティ
趣旨	<p>「変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに身に付けさせたい力」として、中央教育審議会が提言。 平成8年7月「21世紀を展望した我が国教育の在り方について」など累次の答申</p>	<p>「各専攻分野を通じて培う、学士課程共通の学習成果」として、中央教育審議会が提言。 平成20年12月答申「学士課程教育の構築に向けて」</p>	<p>「単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースとして活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力」として、OECDが2000年のPISA調査の開始に当たり定義。</p>	<p>「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」として、経済産業省の研究会が提言。 平成18年1月「社会人基礎力に関する研究会-中間取りまとめ-」</p>	<p>「企業が採用に当たって重視し、基礎的なものとして比較的短期間の訓練により向上可能な能力」として、厚生労働省が提言。 平成16年1月「若年者の就職能力に関する実態調査」</p>	<p>「労働市場価値を含んだ就業能力、即ち、労働市場における能力評価、能力開発目標の基準となる実践的な就業能力」として、厚生労働省の研究会が提言。 平成13年7月「エンプロイアビリティの判断基準等に関する調査研究報告書」</p>
内容	<p>○豊かな学力 知識・技能に加え、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力</p> <p>○豊かな人間性 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など</p> <p>○たくましく生きるための健康や体力</p>	<p>○知識・理解 ・他文化・異文化に関する知識の理解 ・人類の文化、社会と自然に関する知識の理解</p> <p>○汎用的技能 ・コミュニケーションスキル ・数量的スキル ・情報リテラシー ・論理的思考力 ・問題解決力</p> <p>○態度・志向性 ・自己管理力 ・チームワーク、リーダーシップ ・倫理観 ・市民としての社会的責任 ・生涯学習力</p> <p>○統合的な学習経験と創造的思考力</p>	<p>○社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力 ・言語、シンボル、テキストを活用する能力 ・知識や情報を活用する能力 ・テクノロジーを活用する能力</p> <p>○多様な社会グループにおける人間関係形成能力 ・他人と円滑に人間関係を構築する能力 ・協調する能力 ・利害の対立を御し、解決する能力</p> <p>○自立的に行動する能力 ・大局的に行動する能力 ・人生設計や個人の計画を作り実行する能力 ・権利、利害、責任、限界、ニーズを表明する能力</p>	<p>○前に読み出す力(アクション) ・主体性 ・働きかけ力 ・実行力</p> <p>○考え抜く力(シンキング) ・課題発見力 ・計画力 ・想像力</p> <p>○チームで働く力(チームワーク) ・発信力 ・傾聴力 ・柔軟性 ・状況把握力 ・規律性 ・ストレスコントロール力</p>	<p>○コミュニケーション能力 ・意思疎通 ・協調性 ・自己表現能力</p> <p>○職業人意識 ・責任感 ・向上心・探求心 ・職業意識・勤労観</p> <p>○基礎学力 ・読み書き ・計算・計数・数学的思考力 ・社会人常識</p> <p>○ビジネスマナー ・基本的なマナー</p> <p>○資格取得 ・情報技術関係 ・経理・財務関係 ・語学力関係</p>	<p>○労働者個人の能力 ・職務遂行に必要な特定の知識・技能などの顕在的なもの ・協調性、積極的等、職務遂行に当たり、各個人が保持している思考特性や行動特性に係るもの ・動機、人柄、性格、信念、価値観等の潜在的な個人的属性に関するもの</p> <p>○企業の求める変化に対応する能力</p> <p>○横断的な市場価値を含んだ職業能力</p>

高校生の進路不安

Q. 進路を考える時、高校生はどんな気持ちになるか

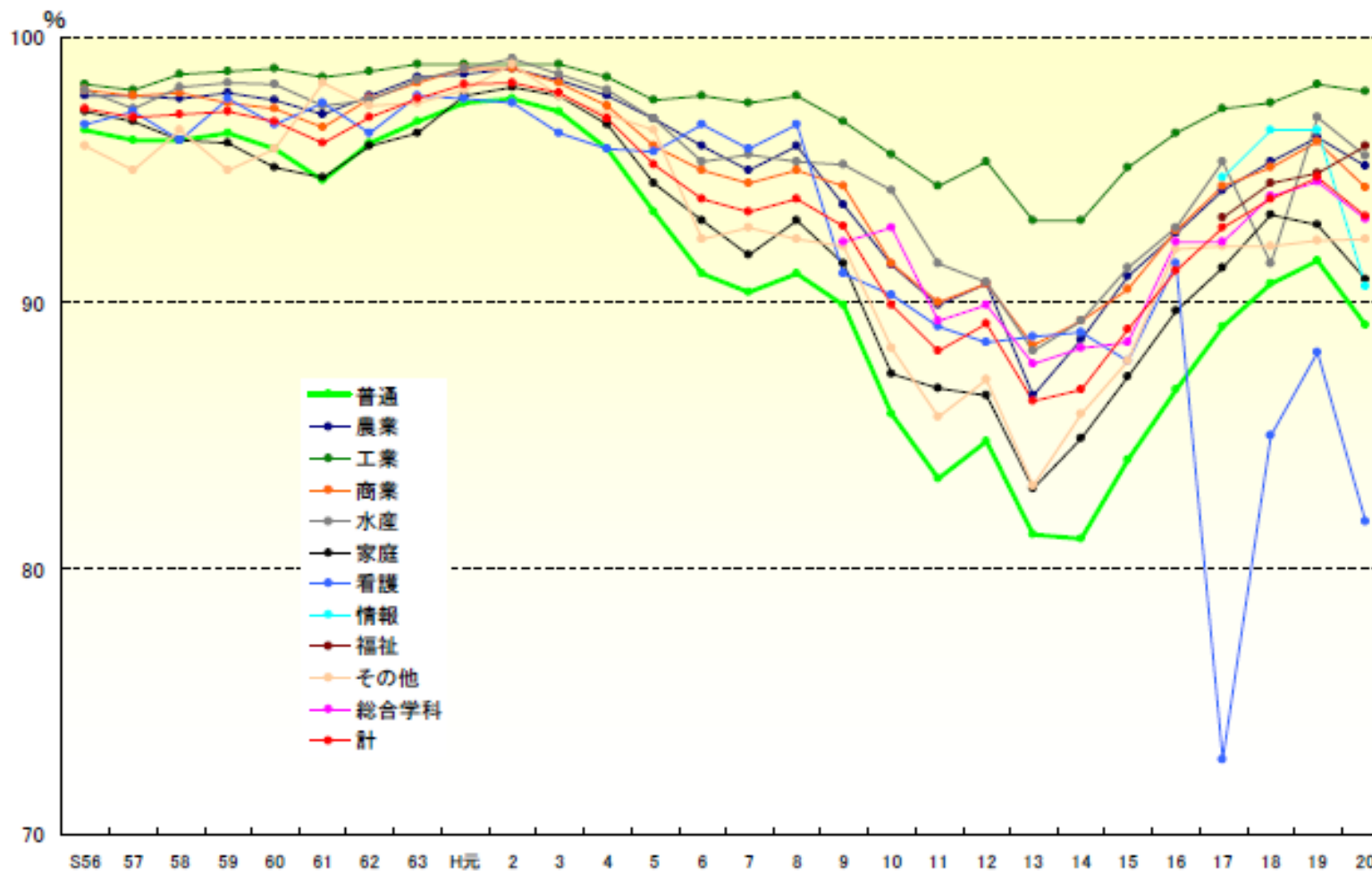
■高校生



データ出所：リクルート「第3回 高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2007年) 48

新規高等学校卒業者の学科別就職状況の推移（各年度3月末時点）

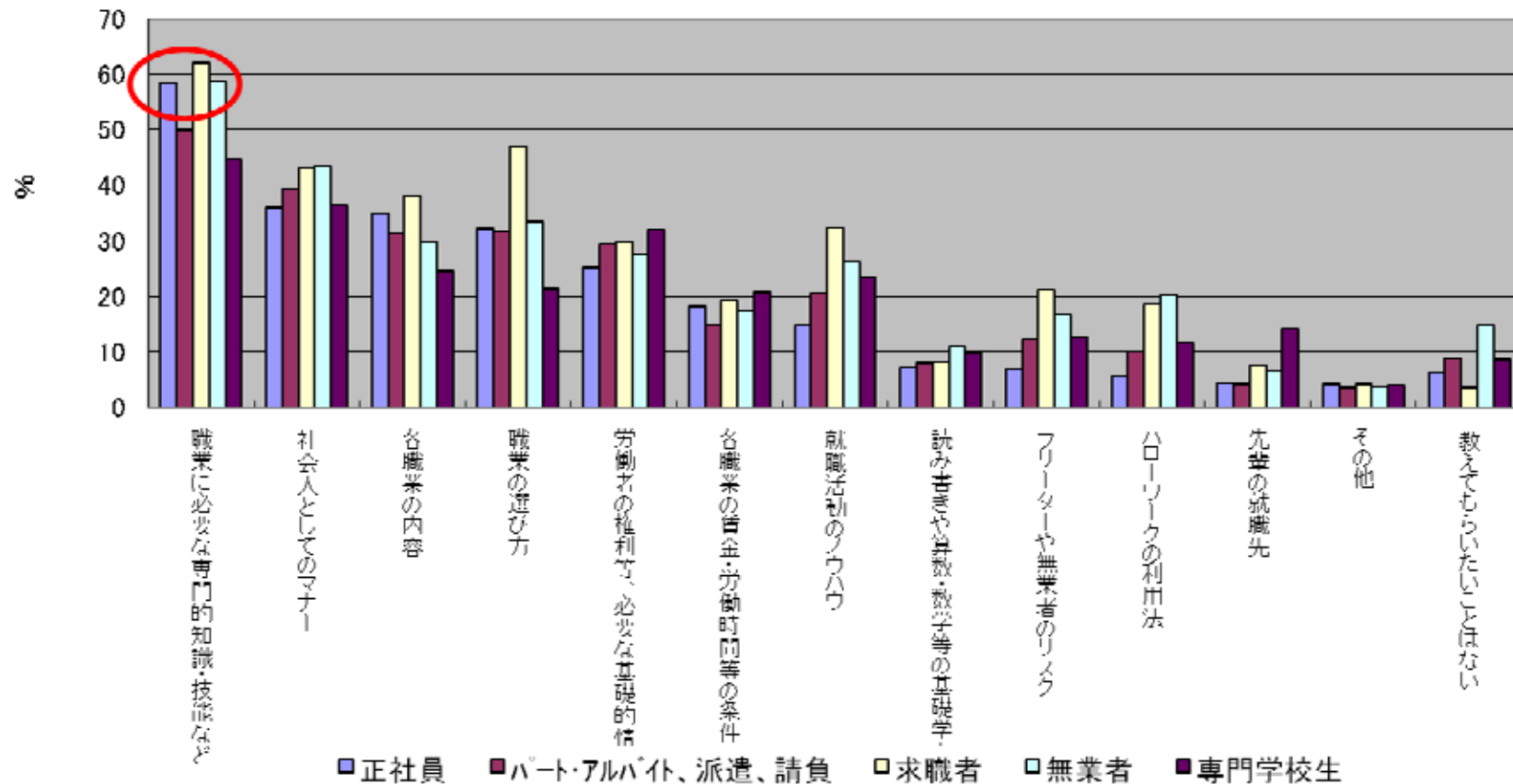
普通科の就職状況は、他の学科と比べて厳しい状況に置かれているのが最近の傾向



(出典) 文部科学省「高等学校卒業者の就職状況に関する調査」

若者は「職業的意義」の低さに不満

図20 学校生活を通じてもっと教えて欲しかったこと
(複数回答)



資料出所：(株)UFJ総研「若年者のキャリア形成に関する実態調査」(2004年厚生労働省委託調査)、厚生労働省『平成20年版労働経済の分析』118頁

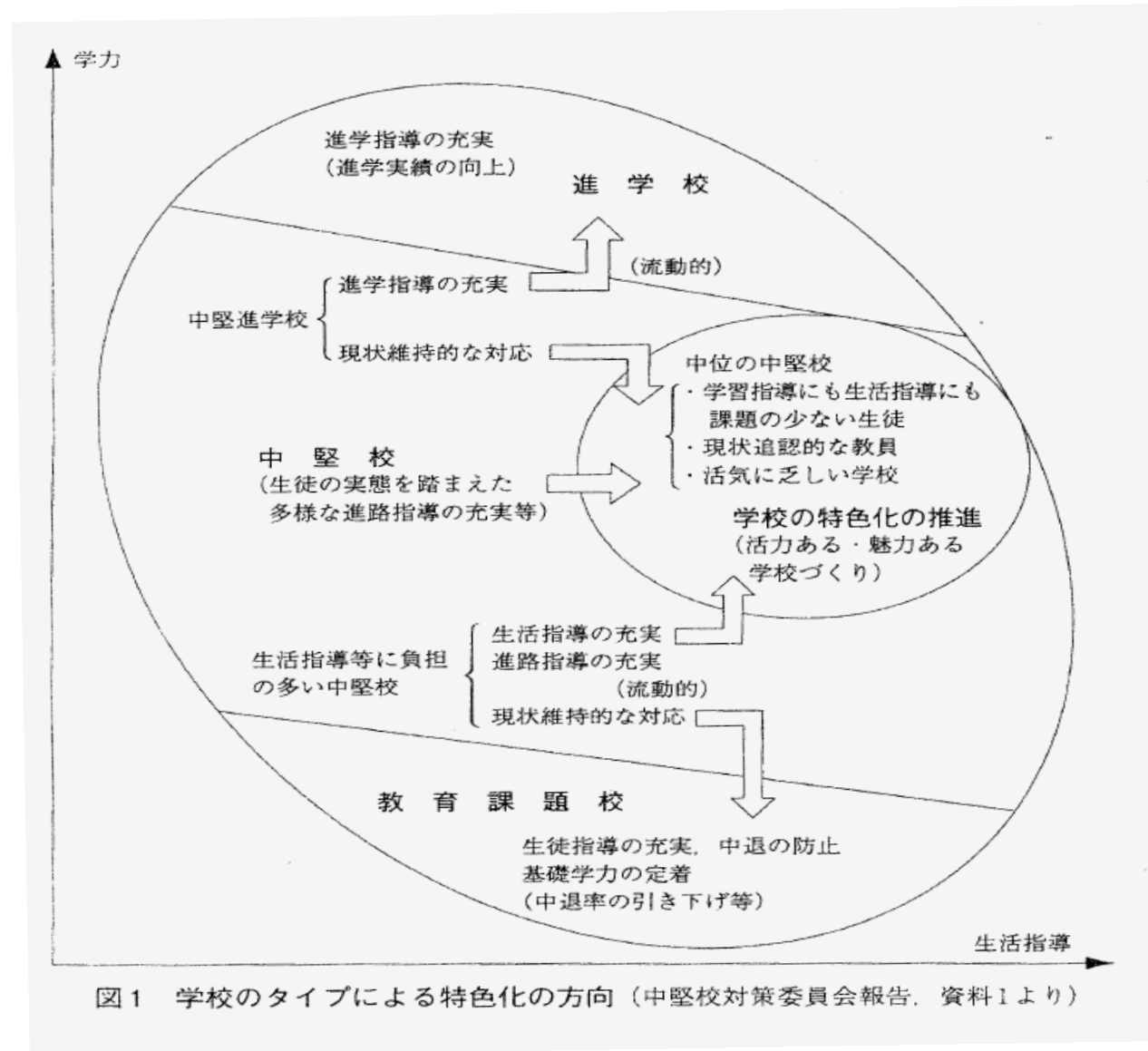
普通高校の現状

都立普通科高校調査について

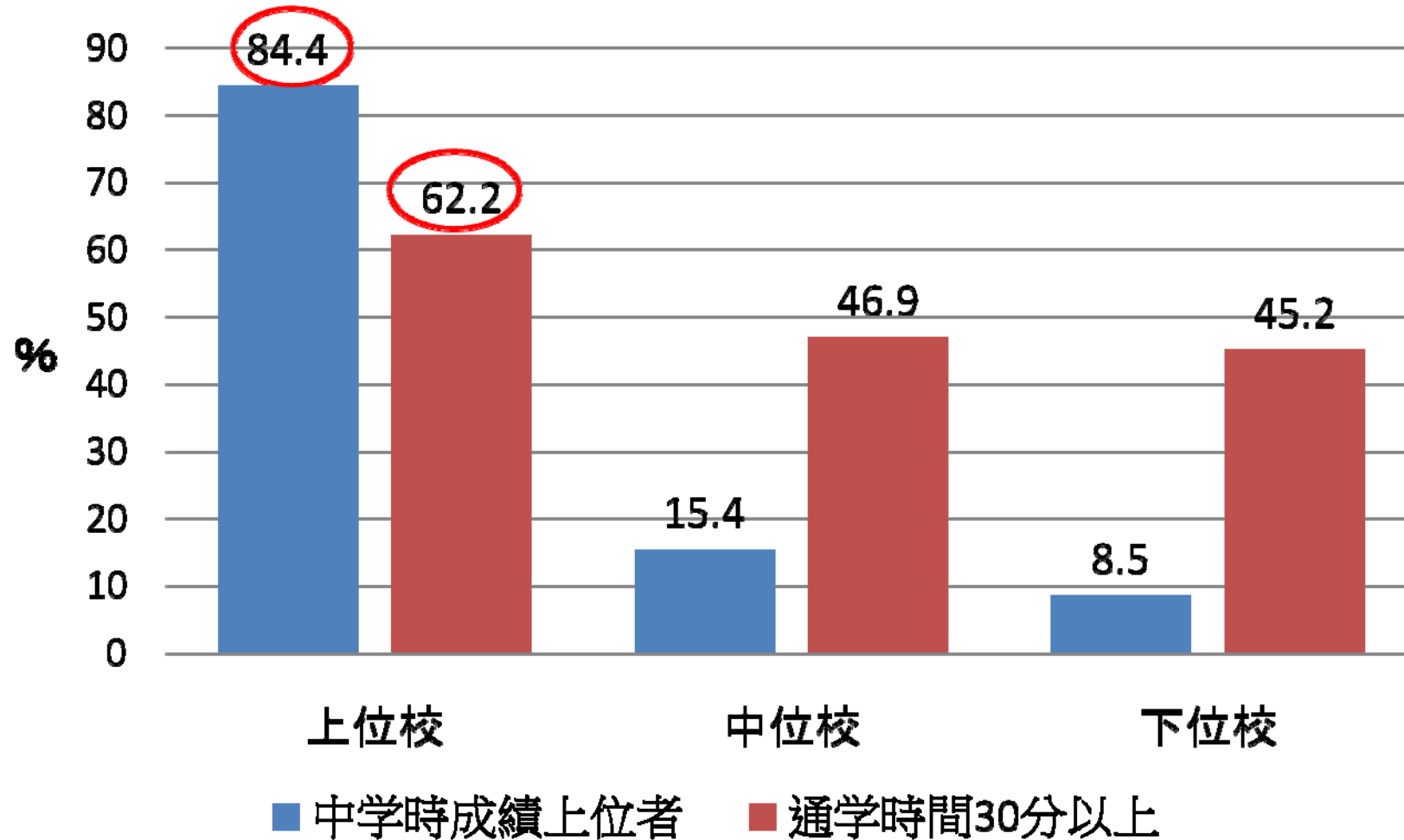
□調査概要

- ・調査対象：都立普通科高校9校の2年生1548人
(旧学区3つから大学進学率を基準として偏りのないよう対象校を選定)
- ・調査時期：2007年10月～12月
- ・調査方法：集団自記式
- ・調査内容：学校内の授業、部活、委員会などの取り組み方、学校外の塾やアルバイトの経験、友人関係、進路志望、自己意識、社会意識、将来展望など
- ・調査主体：東京大学教育学部比較教育社会学コース

都教委の高校政策

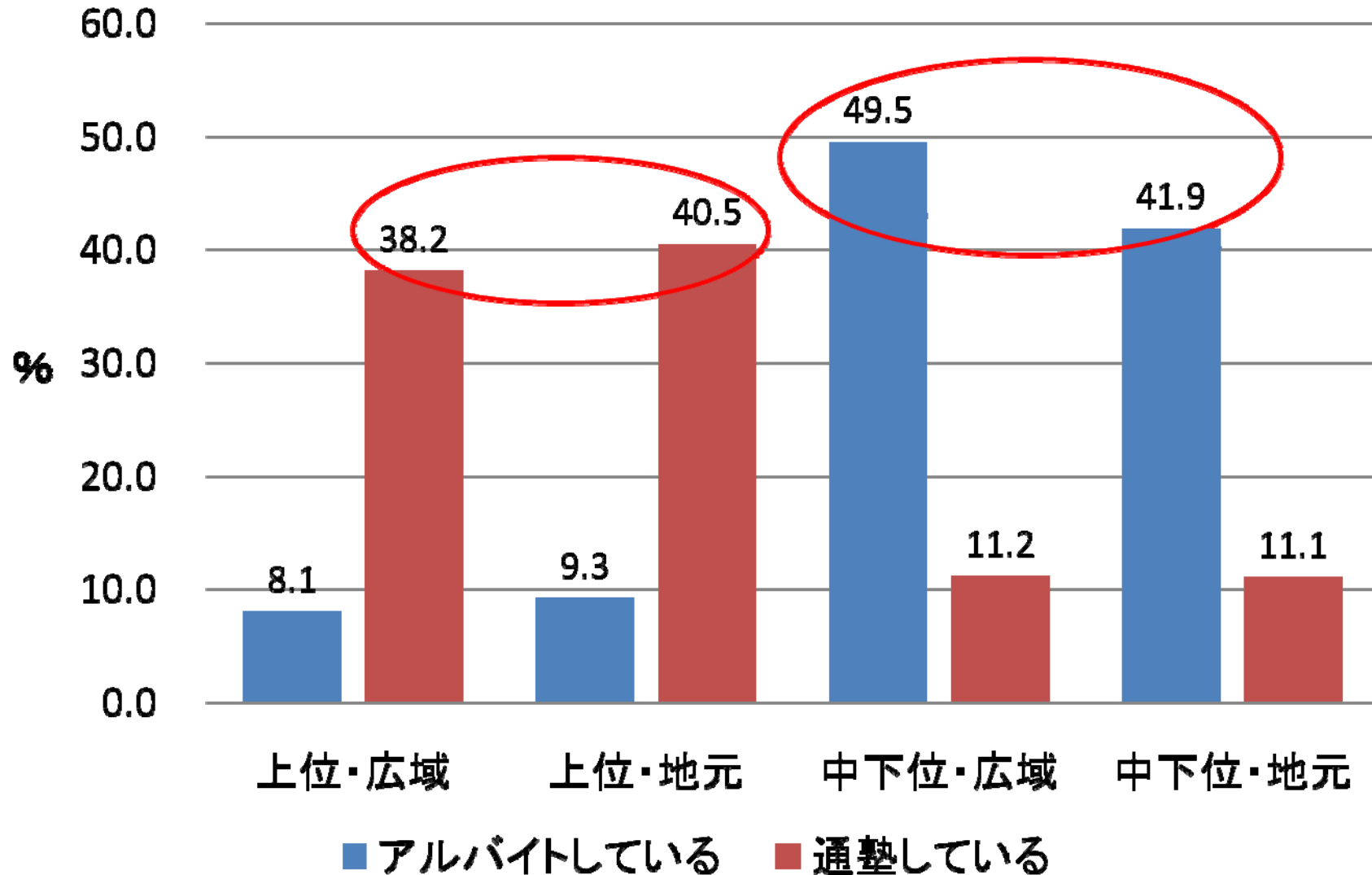


高校ランク別 中学時成績と 通学時間

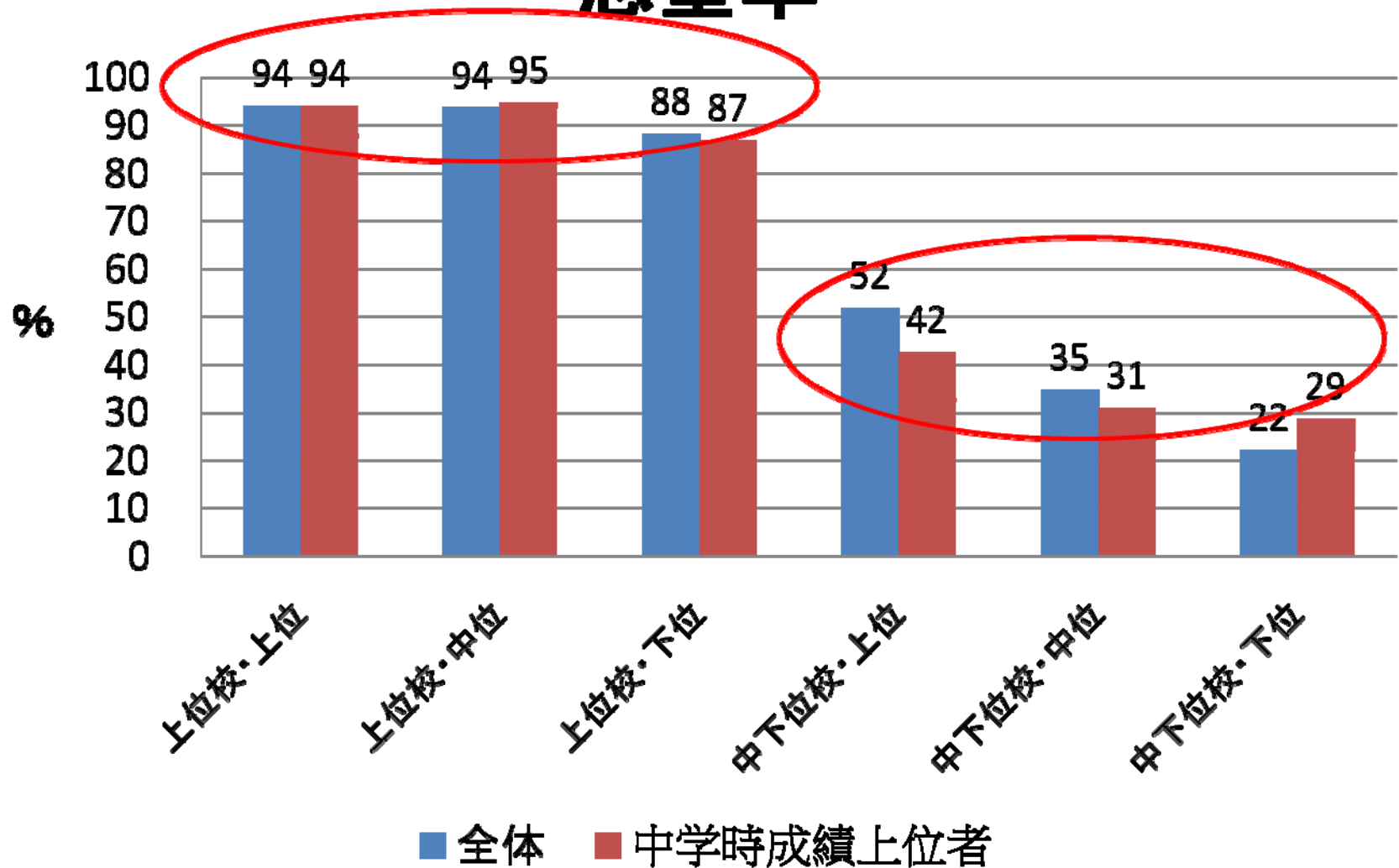


東京大学教育学部比較教育社会学研究室「都立高
校生の生活・行動・意識に関する調査」(2007年)

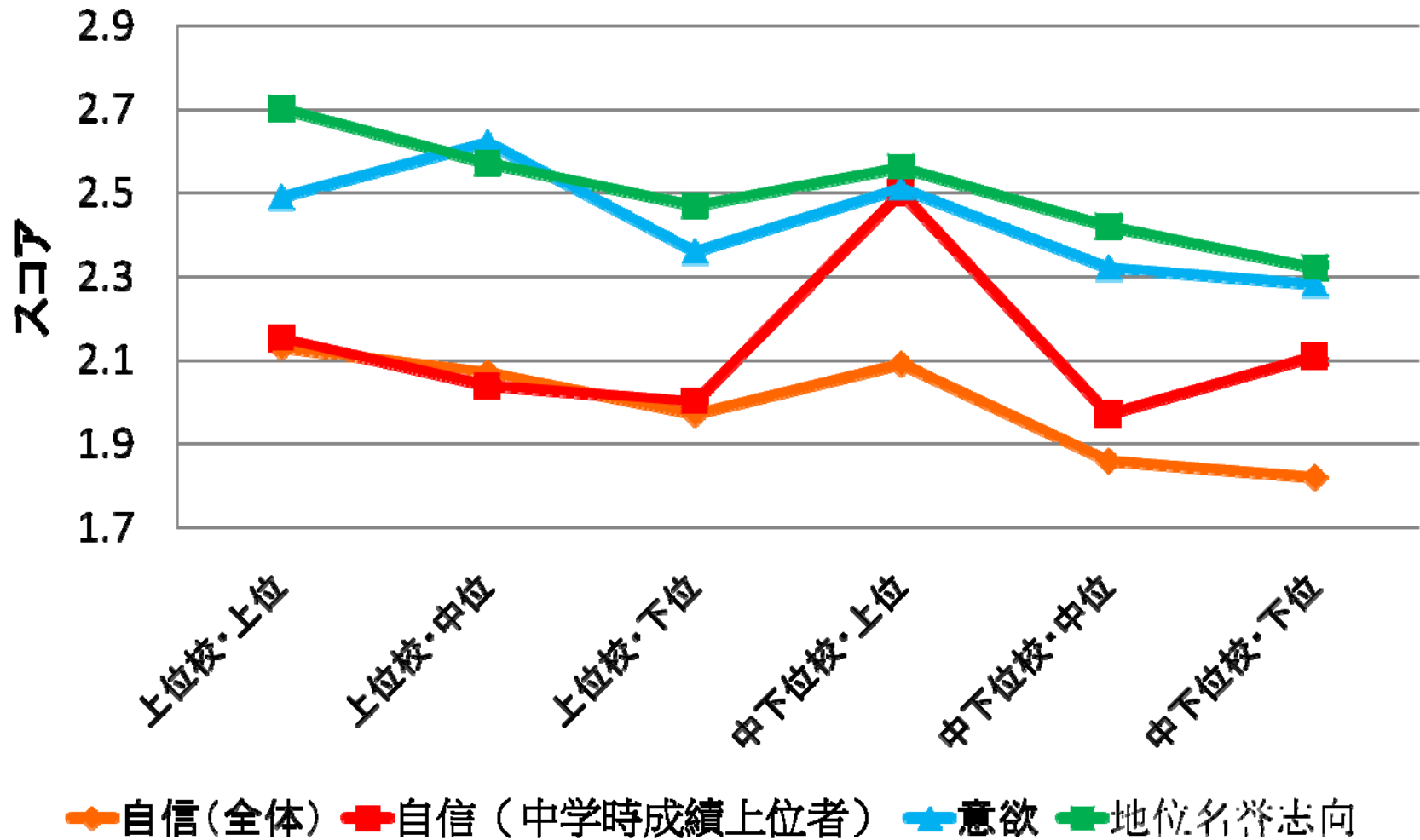
ランク・通学時間別 アルバイトと塾



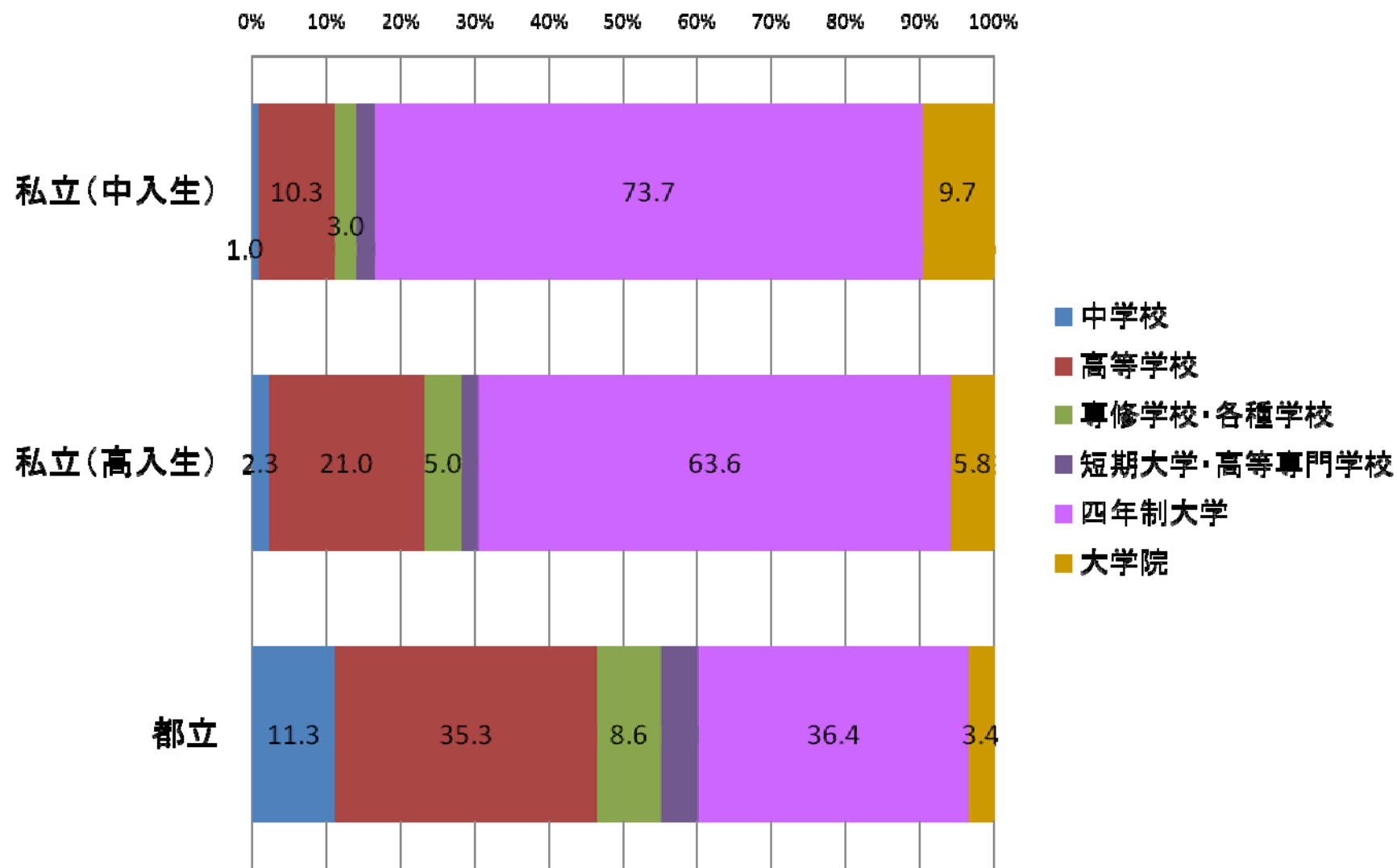
ランク・校内成績別 四年制大学 志望率



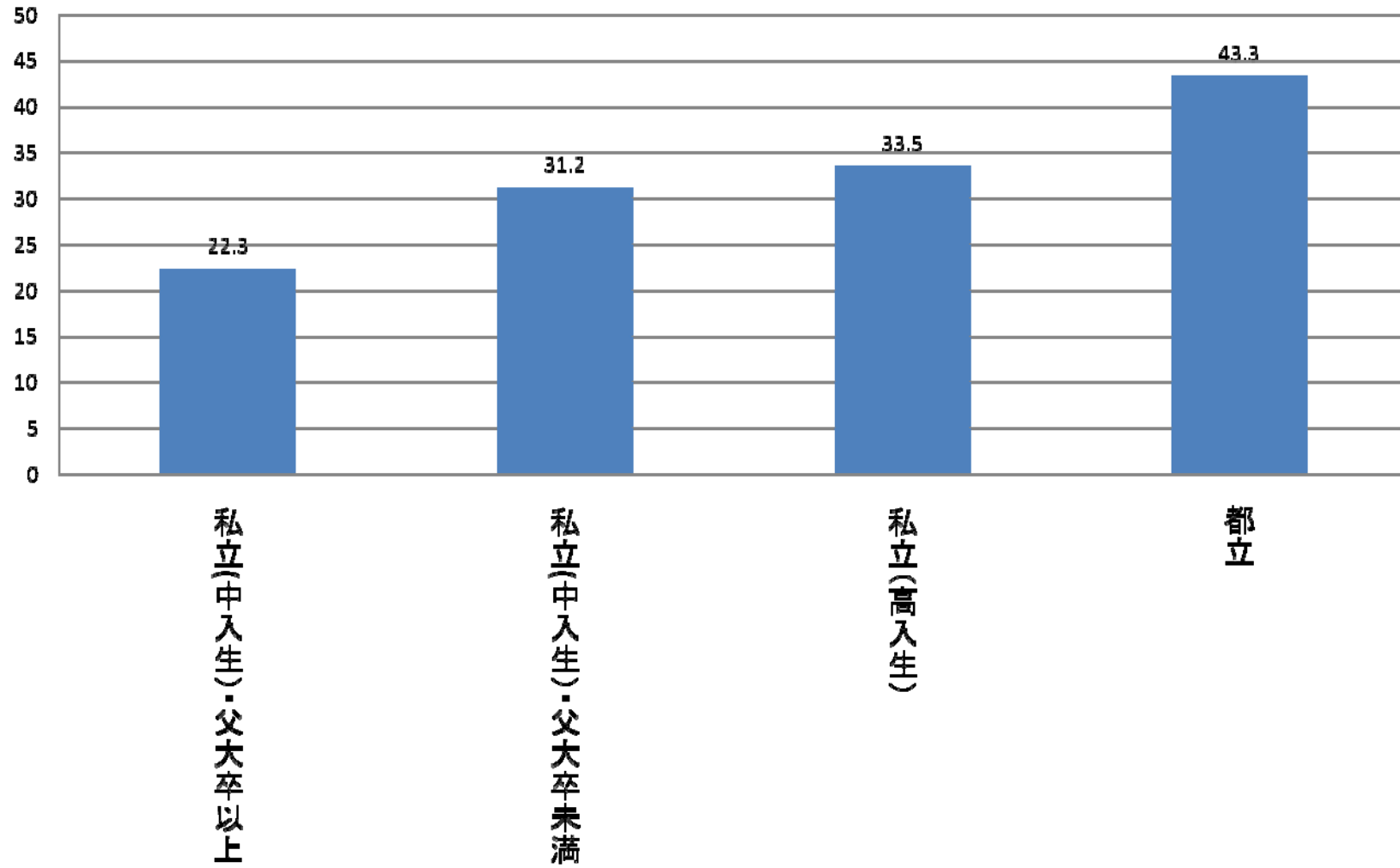
ランク・校内成績別 自信・意欲・ 地位名誉志向



都内高校生類型別 父学歴



都内高校生類型別 格差是正政策に「とても賛成」の比率



都内高校生類型別 知人に自活通学者がいる比率

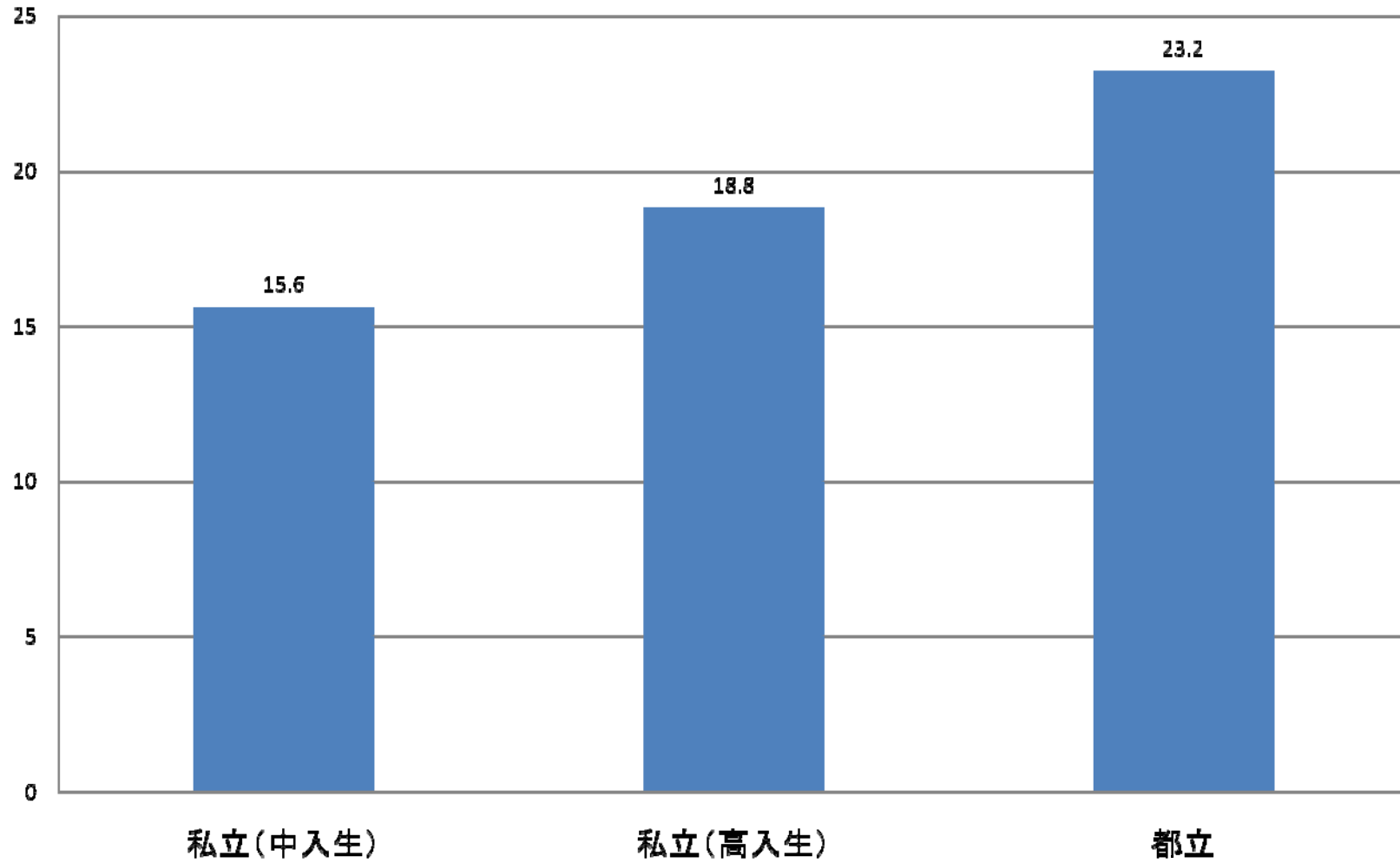


図 都内高校生類型別・自活知人有無別
格差是正生活に「とても賛成」の比率

